Ⅱ 令和4年(2022年)鉱工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 ー 生産指数は低下 ー

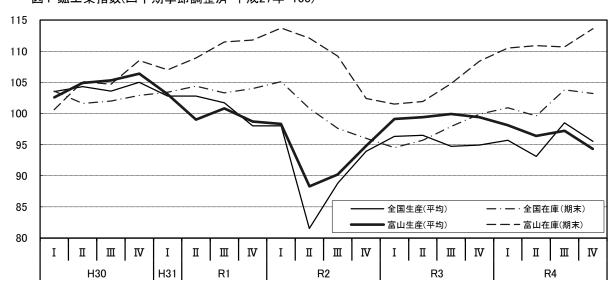
表1 鉱工業生産指数の推移

平成27年=100

<u> </u>	工压归数叭								
		富 L	Ц	-	全国				
	指 数			指 数	前年比				
		(%)	(%)		(%)	(%)			
暦年推移(原	暦年推移(原指数)								
平成30年	104.9	4.4	_	104.2	1.1	_			
令和元年	100.4	▲ 4.3	_	101.1	▲ 3.0	_			
2年	92.9	▲ 7.5	_	90.6	▲ 10.4	_			
3年	99.5	7.1	_	95.7	5.6	_			
4年	96.4	▲ 3.1	_	95.6	▲ 0.1	_			
令和4年四半	期別推移(3	≦節調整済排	旨数)	-	-				
I期	98.1	_	▲ 1.3	95.7	-	0.8			
Ⅱ期	96.4	_	▲ 1.7	93.1	-	▲ 2.7			
Ⅲ 期	97.2	_	0.8	98.5	_	5.8			
IV 期	94.3	_	▲ 3.0	95.5	_	▲ 3.0			

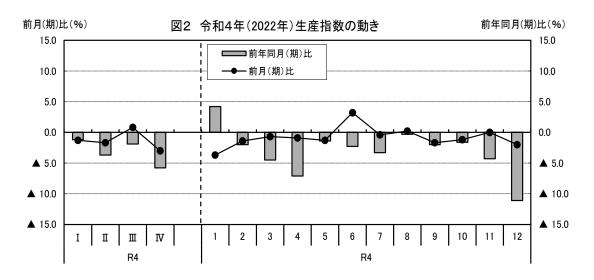
注:全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

図1 鉱工業指数(四半期季節調整済 平成27年=100)



令和4年の生産の動きを四半期別にみると、前期比 (季節調整済指数) は、 $I 期 \triangle 1.3\%$ 、 $II 期 \triangle 1.7\%$ と令和3年IV期以降3期連続で低下したが、III 期 0.8%と4期ぶりに上昇し、IV期 $\triangle 3.0\%$ と再び低下した。

また、前年同期比 (原指数) は、I 期▲ 1.2%、II 期▲ 3.7%、III 期▲ 1.9%、IV 期▲ 5.8% と 4 期連続で前年を下回った (表 1、図 1、図 2、図 3、統計表第 3 表)。



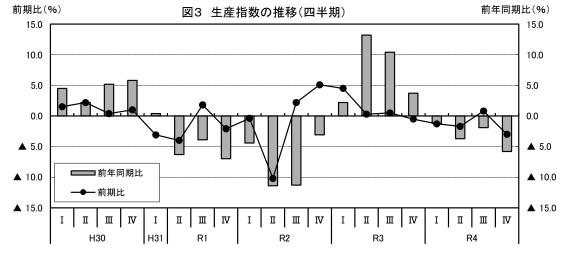


表2 生産指数(年平均) 平成27年=100

		富山県	年平均指導	数(原指数)	前年比	寄与度	全国(参考)
		ウェイト	令和3年	令和4年	(%)	(%ポイント)	ウェイト
鉱工第	É	10000.0	99.5	96.4	▲ 3.1	▲ 3.12	10000.0
製	造工業	10000.0	99.5	96.4	▲ 3.1	▲ 3.12	9983.0
	鉄鋼業	296.1	102.9	92.6	▲ 10.0	▲ 0.31	423.2
	非鉄金属工業	390.4	100.7	95.9	4 .8	▲ 0.19	201.6
	金属製品工業	996.7	84.5	89.1	5.4	0.46	438.1
	汎用·生産用·業務用機械工業	1496.5	119.4	113.6	4 .9	▲ 0.87	1436.6
	電気機械工業	1254.0	100.0	89.1	▲ 10.9	▲ 1.37	1420.1
	輸送機械工業	410.9	89.7	80.3	▲ 10.5	▲ 0.39	1796.5
	窯業·土石製品工業	252.9	72.2	81.0	12.2	0.22	322.0
	化学工業	2734.0	107.3	106.7	▲ 0.6	▲ 0.16	1093.0
	医薬品	2110.9	106.4	108.5	2.0	0.45	237.0
	プラスチック製品工業	497.4	96.5	86.0	▲ 10.9	▲ 0.52	441.7
	パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	91.3	86.7	▲ 5.0	▲ 0.19	226.5
	繊維工業	193.5	77.2	91.7	18.8	0.28	182.2
	食料品工業	531.7	79.1	78.7	▲ 0.5	▲ 0.02	1313.8
	その他工業	544.0	85.8	85.1	▲ 0.8	▲ 0.04	687.7

※寄与度 =
(当年業種指数 - 前年業種指数) ×業種ウェイト
前年鉱工業指数×鉱工業ウェイト

業種別にみると、製造工業 13 業種中、電気機械工業、汎用・生産用・業務用機械工業、プラスチック製品工業など 10 業種が低下し、金属製品工業、繊維工業、窯業・土石製品工業の 3 業種が上昇した(表 2、表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照)。

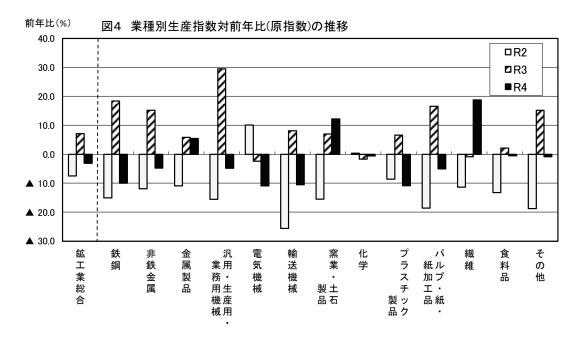
生産指数 (原指数) 全体の低下に最も影響を与えたのは、電気機械工業 (寄与度▲1.37) で、前年比▲10.9%で89.1 となった。次いで、汎用・生産用・業務用機械工業 (寄与度▲0.87) が、前年比▲4.9%で113.6 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは金属製品工業(寄与度 0.46)で、前年比 5.4%の上昇で 89.1 となり、次いで、繊維工業(寄与度 0.28)は衣類などの増加により、前年比 18.8%の上昇で 91.7 となった。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
	電気機械工業	▲ 1.37		
	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 0.87		
	プラスチック製品工業	▲ 0.52	その他プラスチック製品	フィルム・シート
	輸送機械工業	▲ 0.39		
低下	鉄鋼業	▲ 0.31	-	鋳鍛鋼品類
業種	非鉄金属工業	▲ 0.19	アルミニウム圧延製品	非鉄金属鋳物
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.19	段ボール・箱・袋	
	化学工業	▲ 0.16	医薬品	化学肥料
	その他工業	▲ 0.04		木材·木製品工業
	食料品工業	▲ 0.02	飲料	畜産食料品
LB	金属製品工業	0.46		=
上昇 業種	繊維工業	0.28	衣類	織物
木性	窯業・土石製品工業	0.22	セメント製品	生コンクリート

※空欄は当該品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。



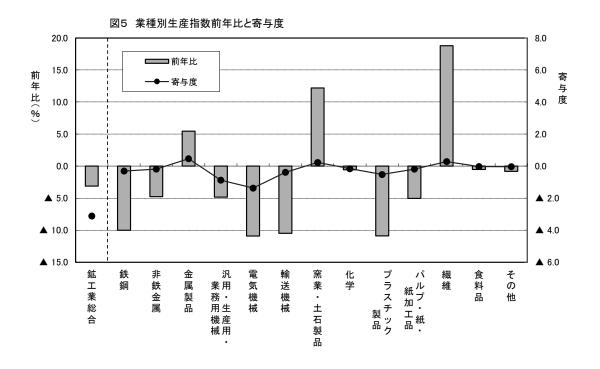
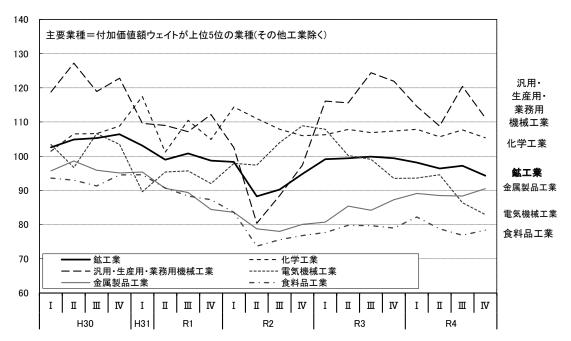


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成27年=100)の推移

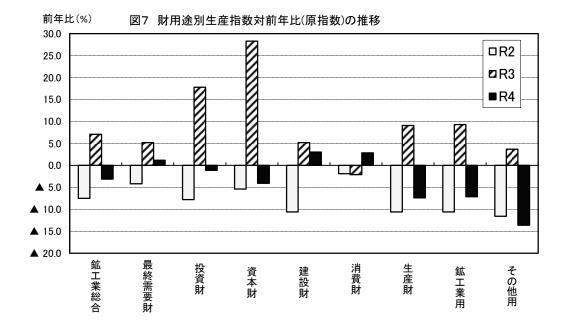


財用途別生産指数 (原指数) の前年比は、最終需要財が 1.2%の上昇となり、生産財が $\blacktriangle 7.4\%$ となったことにより、全体で $\blacktriangle 3.1\%$ となった。

最終需要財は、投資財 (寄与度 $\Delta 0.23$) が前年比 $\Delta 1.1\%$ となり、消費財 (寄与度 0.83) が前年比2.8%の上昇となったことにより、全体では1.2%の上昇となった。

生産財は、鉱工業用生産財(寄与度▲3.51)が前年比▲7.2%となった(表 4、図 7、統計表第 2 表)。

表4 生産指数 (財用途分類・	年平均)				平成27年=100
	ウェイト	年平均指数	攻(原指数)	前年比	寄与度
	(万分比)	3年	4年	(%)	(%ポイント)
鉱工業	10000.0	99.5	96.4	▲ 3.1	▲ 3.12
最終需要財	4819.7	101.7	102.9	1.2	0.58
投資財	1885.7	106.5	105.3	▲ 1.1	▲ 0.23
資本財	972.2	122.8	117.8	▲ 4.1	▲ 0.49
建設財	913.5	89.2	91.9	3.0	0.25
消費財	2934.0	98.6	101.4	2.8	0.83
耐久消費財	127.3	X	X	Х	X
非耐久消費財	2806.7	X	X	X	X
生産財	5180.3	97.5	90.3	▲ 7.4	▲ 3.75
鉱工業用生産財	4985.4	97.9	90.9	▲ 7.2	▲ 3.51
その他用生産財	194.9	87.3	75.4	▲ 13.6	▲ 0.23



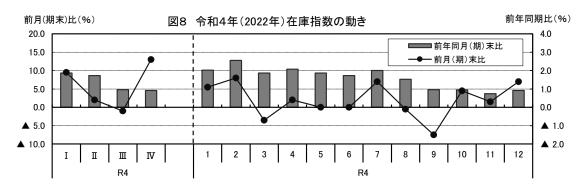
(2) 在庫動向 ― 在庫指数は上昇 ―

令和4年の在庫指数 (原指数) は、前年末比4.6%上昇の109.2となり、2年連続で上昇した (表5)。

令和4年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、I 期 1.9%、 II 期 0.4%と令和3年II 期以降5期連続で上昇したが、III 期は \blacktriangle 0.2%となり、IV 期は 2.6%と再び上昇した。

また、前年同期末比(原指数)では、 I 期 9.3%、 II 期 8.6%、 III 期 4.8%、 IV 期 4.6% と令和 3 年IV 期以降 5 期連続で前年を上回った(表 5、図 8、図 9、統計表第 4 表)。

表5 鉱工業生								
	i i	富 山	1	全国				
	指 数	前年末比	前期末比	指 数	前年末比	前期末比		
	年(期)末	(%)	(%)	年(期)末	(%)	(%)		
暦年推移(原指	勤)							
平成30年	104.5	9.9	-	100.5	1.7	_		
令和元年	107.9	3.3	-	101.7	1.2	_		
2年	98.1	▲ 9.1	_	93.2	▲ 8.4	_		
3年	104.4	6.4	-	97.8	4.9	_		
4年	109.2	4.6	_	101.0	3.3	_		
令和4年四半期	別推移(季	節調整済技	旨数)					
I 期	110.5	-	1.9	100.9	-	1.0		
Ⅱ期	110.9	_	0.4	99.6	_	▲ 1.3		
Ⅲ 期	110.7	_	▲ 0.2	103.8	_	4.2		
IV 期	113.6	_	2.6	103.2	_	▲ 0.6		



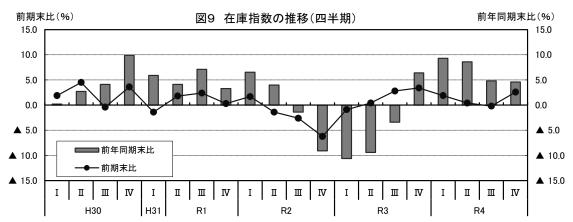


表6 在庫指数(年末) 平成27年=100

		富山県	年末指数	(原指数)	前年末比	寄与度	全国(参考)
		ウェイト	令和3年	令和4年	(%)	(%ポイント)	ウェイト
鉱工	業	10000.0	104.4	109.2	4.6	4.60	10000.0
製	製造工業		104.4	109.2	4.6	4.60	9980.9
	鉄鋼業	413.9	91.5	94.3	3.1	0.11	1464.6
	非鉄金属工業	375.4	96.4	122.0	26.6	0.92	271.9
	金属製品工業	482.2	103.3	102.6	▲ 0.7	▲ 0.03	470.9
	汎用・生産用・業務用機械工業	1966.6	114.2	115.3	1.0	0.21	1027.3
	電気機械工業	578.6	Х	Х	Х	Х	1122.1
	輸送機械工業	225.6	93.4	99.8	6.9	0.14	757.4
	窯業·土石製品工業	379.7	85.2	87.6	2.8	0.09	361.6
	化学工業	3225.2	91.3	94.1	3.1	0.86	1664.0
	医薬品	1318.0	88.0	95.3	8.3	0.92	-
	プラスチック製品工業	621.8	129.1	134.2	4.0	0.30	435.4
	パルプ・紙・紙加工品工業	597.5	79.8	60.9	▲ 23.7	▲ 1.08	321.7
	繊維工業	258.1	100.7	82.6	▲ 18.0	▲ 0.45	256.4
	食料品工業	603.8	78.5	66.3	▲ 15.5	▲ 0.71	860.4
	その他工業	271.6	Х	Х	Х	Х	967.2

※寄与度 = (当年業種指数・前年業種指数)×業種ウェイト 前年鉱工業指数×鉱工業ウェイト ×100 業種別にみると、製造工業 13 業種中、電気機械工業、非鉄金属工業、化学工業など 8 業種が上昇し、パルプ・紙・紙加工品工業、食料品工業など 5 業種が低下した。(表 6、表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照)。

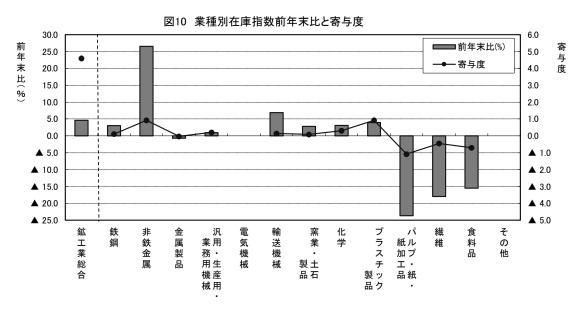
在庫指数 (原指数) 全体の上昇に最も影響を与えたのは電気機械工業であり、次いで、非 鉄金属工業 (寄与度 0.92) が、前年末比 26.6%の上昇で 122.0 となった。

一方、低下に最も影響を与えたのは、パルプ・紙・紙加工品工業(寄与度 $\triangle 1.08$)で前年末比 $\triangle 23.7\%$ で 60.9 となった。次いで、食料品工業(寄与度 $\triangle 0.71$)は飲料などの減少により、前年末比 $\triangle 15.5\%$ で 66.3 となった。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
	電気機械工業	X		
	非鉄金属工業	0.92		
	化学工業	0.86	化学肥料	その他化学製品
上昇	プラスチック製品工業	0.30	日用品雑貨	その他プラスチック製品
業種	汎用・生産用・業務用機械工業	0.21		
	輸送機械工業	0.14	自動車部品	_
	鉄鋼業	0.11	鋳鍛鋼品類	熱間圧延鋼材
	窯業·土石製品工業	0.09		その他窯業・土石製品
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 1.08	板紙	
/#.T	食料品工業	▲ 0.71	-	飲料
低下 業種	繊維工業	▲ 0.45	化繊•紡績	衣類
	その他工業	X		
	金属製品工業	▲ 0.03		

※空欄は該当品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。



※電気機械工業、その他工業の在庫指数は秘匿値のため公表しません。

財用途別在庫指数(原指数)の前年末比は、最終需要財が▲1.7%となったが、生産財が 7.2% と上昇し、全体で 4.6%の上昇となった。

最終需要財では、投資財(寄与度 $\Delta 0.30$)が前年末比 $\Delta 3.3\%$ となり、消費財(寄与度 $\Delta 0.19$)が前年末比 $\Delta 0.9\%$ となり、全体で $\Delta 1.7\%$ となった。

生産財では、鉱工業用生産財(寄与度 4.09)が前年末比 6.0%の上昇となり、全体で 7.2% の上昇となった (表 8)。

表8 在庫指数(財用途分類・年末)

亚	成27	7年=1	00

	_		ウェイト	年末指数	(原指数)	前年末比	寄与度
			(万分比)	3年	4年	(%)	(%ポイント)
鉱コ	[業		10000.0	104.4	109.2	4.6	4.60
	最終	冬需要財	3283.8	93.1	91.5	▲ 1.7	▲ 0.50
		投資財	773.5	120.9	116.9	▲ 3.3	▲ 0.30
		資本財	187.7	103.7	102.5	▲ 1.2	▲ 0.02
		建設財	585.8	126.4	121.5	▲ 3.9	▲ 0.27
		消費財	2510.3	84.5	83.7	▲ 0.9	▲ 0.19
		耐久消費財	125.8	X	X	X	Х
		非耐久消費財	2384.5	X	X	X	Х
	生產	全財	6716.2	110.0	117.9	7.2	5.08
		鉱工業用生産財	6369.9	111.3	118.0	6.0	4.09
		その他用生産財	346.3	85.5	116.1	35.8	1.02

(3)在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成31年 I 期は「在庫積み上がり局面」に位置し、令和元年 II 期は「在庫調整局面」へ、令和元年 III 期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年 II 期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和2年 II 期、III 期は「在庫調整局面」へ移動した。令和2年 I 期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和2年 II 期は「在庫調整局面」に位置したが、令和2年 IV 期、令和3年 I 期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。令和3年 II 期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和3年 IV 期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。令和4年 I 期、III 期は「在庫積み上がり局面」に位置したが、令和4年 IV 期は「在庫調整局面」へ移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成31年 I 期は「在庫調整局面」に位置し、令和元年 II 期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年III 期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置した。令和元年IV 期から令和2年III 期は「在庫調整局面」に位置したが、令和2年IV 期、令和3年 I 期は「在庫減少局面」へ移動した。令和3年 II 期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和3年 IV 期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。令和4年 I 期からIV 期は引き続き「在庫積み上がり局面」に位置している。

[在庫循環図について]

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環(Inventory Cycle)と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図(生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面) として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在 庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある(傾 向変動を除去した場合)。

なお、過去の分析から、ほぼ 40 ヵ月($3\sim4$ 年)の循環を示すことが多く、「キチンの波」(キチン(Kitchin)が分析したもの)とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き、需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を 急ぎ、在庫を積み増す(図 b1,b2)。

「在庫積み上がり局面」

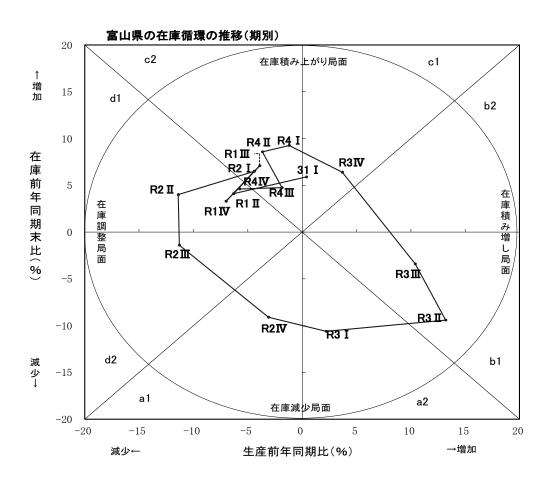
景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる(**意図せざる在庫投資**、図 $\mathbf{c1},\mathbf{c2}$)。

「在庫調整局面」

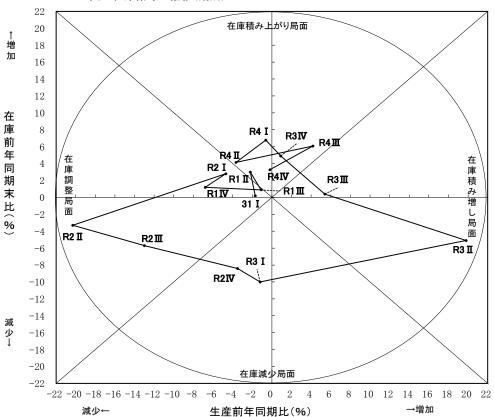
需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・ 後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる(図 d1,d2)。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても 在庫が意図しないで減少する(**意図せざる在庫減局面**、図 a1,a2)。



全国の在庫循環の推移(期別)



MEMO

2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

① 概 況

生産指数は前年比 $\triangle 10.0\%$ (寄与度 $\triangle 0.31$) で 92.6 となり、2年ぶりに低下した。これは3品目すべてが減少したことによる (表 1、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比 3.1% (寄与度 0.11) の上昇で 94.3 となり、4 年ぶりに上昇した。これは 3 品目中、 1 品目 (熱間圧延鋼材) が減少したものの、 2 品目 (素製品 (鋼半製品含)、鋳鍛鋼品類) が増加したことによる (表 1、統計表第 9 表)。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

										100 T
	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
鉄鋼業	296.1	102.9	92.6	▲ 10.0	▲ 0.31	413.9	91.5	94.3	3.1	0.11
素製品(鋼半製品含)	123.0	90.9	84.3	▲ 7.3	▲ 0.08	248.7	82.5	83.8	1.6	0.03
熱間圧延鋼材	34.0	78.9	71.3	▲ 9.6	▲ 0.03	40.5	93.9	90.7	▲ 3.4	▲ 0.01
鋳鍛鋼品類	139.1	119.4	105.1	▲ 12.0	▲ 0.20	124.7	108.7	116.5	7.2	0.09

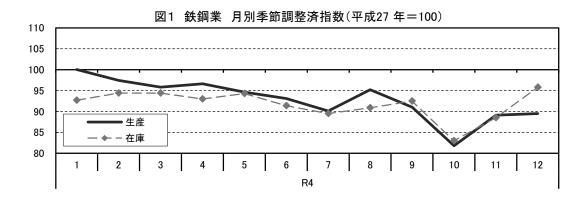
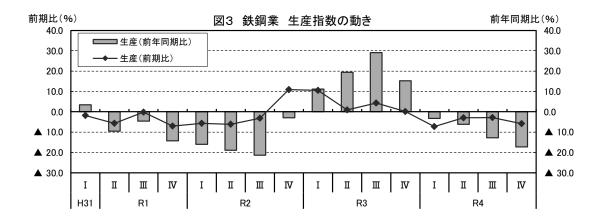


図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成27年=100) 120 ■生産(平均) ← - 在庫(期末) 110 100 90 80 I I I I I I п II IV II IV H30 H31 R1 R2 R3 R4

② 生 産

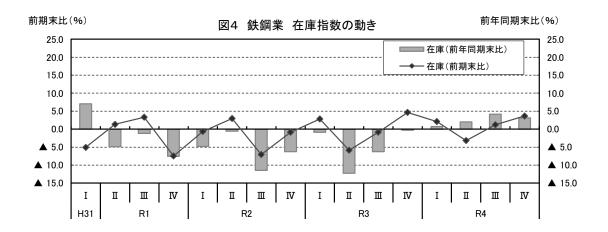
四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I 期▲7.3%、II 期▲3.0%、III 期▲2.8%、IV 期▲5.8%と4期連続で低下した。

また、前年同期比 (原指数) は、I 期 43.3%、11 期 46.1%、11 期 412.8%、17.3% と 4 期連続で前年を下回った (図 3、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、 I 期 2.1%と令和 3 年IV期につづき 上昇し、II 期▲3.2%と低下したが、III 期 1.2%、IV期 3.6%と 2 期連続で上昇した。 また、前年同期末比(原指数)は、 I 期 0.7%、II 期 2.0%、III 期 4.1%、IV期 3.1%と 4 期連続で前年を上回った(図 4、統計表第 4 表)。



(2) 非鉄金属工業

① 概 況

生産指数は前年比 \blacktriangle 4.8%(寄与度 \blacktriangle 0.19)で 95.9 となり、2年ぶりに低下した。これは7品目中、3品目(アルミニウム圧延製品など)が増加したものの、4品目(アルミニウムニ 次精錬、非鉄金属鋳物、その他非鉄金属製品など)が減少したことによる(表 2、統計表第7表)。 在庫指数は前年末比 26.6%(寄与度 0.92)の上昇で 122.0 となり、2年ぶりに上昇した。これは6品目中、2品目(アルミニウム圧延製品など)が減少したものの、4品目が増加したことによる(表 2、統計表第9表)。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

										1%27 T 100
	ウェイト	生産指数	(原指数)	前年比(%)	寄与度	ウェイト	在庫指数	(原指数)	前年末比	寄与度
	(万分比)	令和3年	令和4年	前午近(70)	(%ポイント)	(万分比)	令和3年	令和4年	(%)	(%ポイント)
非鉄金属工業	390.4	100.7	95.9	▲ 4.8	▲ 0.19	375.4	96.4	122.0	26.6	0.92
アルミニウムニ次精錬	32.4	90.5	80.2	▲ 11.4	▲ 0.03	61.5	х	Х	х	>
非鉄金属地金	10.1	Х	Х	Х	Х	13.6	х	Х	Х)
伸銅製品	77.0	Х	Х	Х	Х	176.9	х	Х	Х)
アルミニウム圧延製品	69.0	99.2	101.2	2.0	0.01	40.5	167.1	164.7	▲ 1.4	▲ 0.0
電線ケーブル	17.1	Х	Х	Х	Х	12.2	х	Х	Х)
非鉄金属鋳物	134.3	92.5	86.3	▲ 6.7	▲ 0.08	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	50.5	126.6	111.6	▲ 11.8	▲ 0.08	70.7	Х	Х	х	

図5 非鉄金属工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

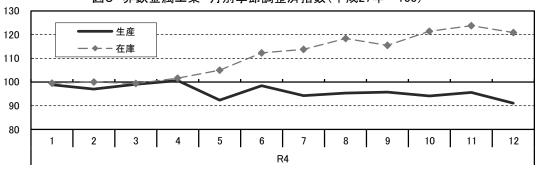
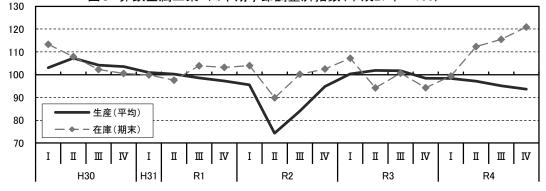


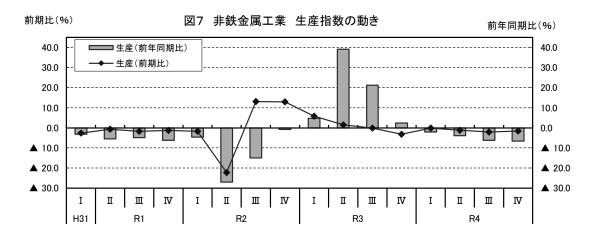
図6 非鉄金属工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



② 生 産

四半期別生産指数の前期比 (季節調整済指数) は、I 期▲0.1%、II 期▲1.2%、III 期▲2.1%、IV 期▲1.6%と令和3年III 期以降6 期連続で低下した。

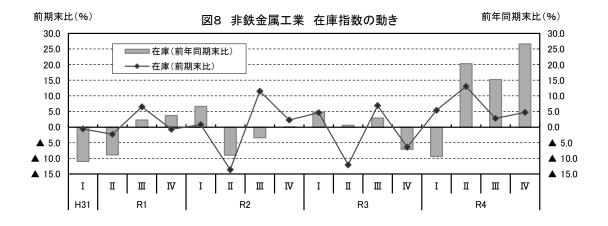
また、前年同期比 (原指数) は、 I 期▲2.1%、 II 期▲3.9%、 III 期▲6.2%、 IV 期▲6.6% と 4 期連続で前年を下回った (図 7、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比 (季節調整済指数) は、I 期 5.4%、II 期 13.0%、III 期 2.8%、IV 期 4.7% と 4 期連続で上昇した。

また、前年同期末比 (原指数) は、 I 期 49.4% と令和 3 年 10 期につづき前年を下回ったが、 10 期 20.3%、 10 期 15.2%、 10 別 26.6% と 3 期連続で前年を上回った(図 8、統計表第 4 表)。



(3) 金属製品工業

① 概 況

生産指数は前年比 5.4% (寄与度 0.46) の上昇で 89.1 となり、 2 年連続で上昇した。これは 6 品目中、 1 品目が減少したものの、 5 品目(鉄構物、金属製建具など)が増加したことによる (表 3、統計表第 7表)。

在庫指数は前年末比 \triangle 0.7%(寄与度 \triangle 0.03)で 102.6 となり、2年ぶりに低下した。これは4品目中、3品目(金属製建具など)が増加したものの、1品目が減少したことによる(表 3、統計表第9表)。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100	
-----------	--

	+ 1,0,27									/9QE/ 100
	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	g	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
金属製品工業	996.7	84.5	89.1	5.4	0.46	482.2	103.3	102.6	▲ 0.7	▲ 0.03
鉄構物	43.7	68.9	79.1	14.8	0.04	-	-	-	-	-
金属製建具	606.2	87.8	90.1	2.6	0.14	360.2	97.0	98.7	1.8	0.06
軽金属板製品	177.7	Х	Х	Х	х	53.8	х	Х	Х	Х
管継手	2.3	х	Х	х	x	-	-	-	-	-
ばね	11.0	х	Х	х	Х	9.9	х	Х	Х	Х
その他金属製品	155.8	Х	Х	Х	Х	58.3	Х	Х	Х	Х

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

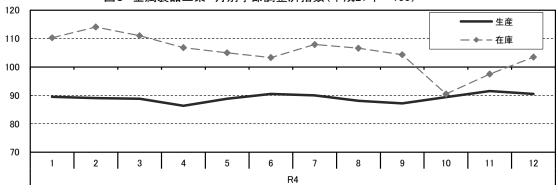
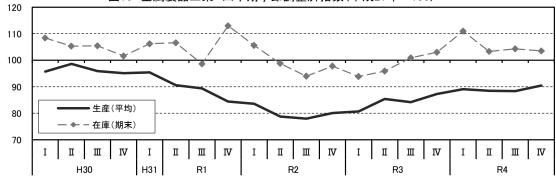
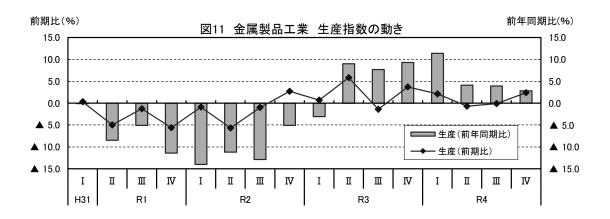


図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



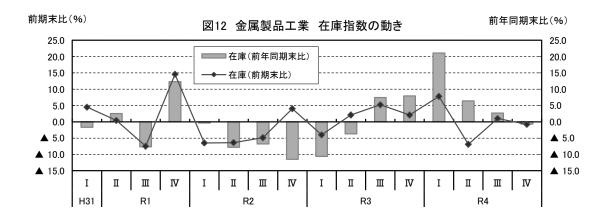
四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期 2.1%と令和3年IV期につづき上昇し、II期▲0.7%、III期▲0.1%と2期連続で低下したが、IV期 2.4%と再び上昇した。また、前年同期比(原指数)は、I期 11.4%、II 期 4.1%、III 期 3.9%、IV期 2.8%と令和3年II 期以降7期連続で前年を上回った(図11、統計表第3表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期 7.8%と令和3年Ⅱ期以降4期連続で上昇したが、II期 ▲6.9%と低下し、III期 1.0%と上昇したが、IV期 ▲0.8%と再び低下した。

また、前年同期末比 (原指数) は、 I 期 21.1%、 II 期 6.4%、 III 期 2.7% と令和 3 年 III 期 以降 5 期連続で前年を上回ったが、 IV 期 ▲ 0.7% と前年を下回った (図 12、統計表第 4 表)。



(4) 汎用・生産用・業務用機械工業

① 概 況

生産指数は前年比 $\triangle 4.9\%$ (寄与度 $\triangle 0.87$) で 113.6 となり、2年ぶりに低下した。これは8品目中、3品目 (金型など) が増加したものの、5品目 (ロボット・産業機械、金属工作機械、その他一般機械・部品など) が減少したことによる (表 4、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比 1.0% (寄与度 0.21)の上昇で 115.3 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、 2 品目が減少したものの、 3 品目が増加したことによる (表 4、統計表第 9 表)。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	+成									
	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
汎用•生産用•業務用機械工業	1496.5	119.4	113.6	▲ 4.9	▲ 0.87	1966.6	114.2	115.3	1.0	0.21
油圧機器	114.5	Х	Х	Х	Х	-	-	-	-	-
軸受	274.2	Х	Х	Х	Х	466.7	х	Х	Х	Х
ロボット・産業機械	381.9	203.3	195.3	▲ 3.9	▲ 0.31	-	-	-	-	-
金属工作機械	334.3	69.4	64.2	▲ 7.5	▲ 0.17	56.4	х	Х	Х	Х
金型	69.6	76.0	82.9	9.1	0.05	-	-	-	-	-
機械工具	205.7	Х	Х	х	Х	1316.1	х	Х	Х	Х
その他一般機械・部品	41.4	64.6	64.3	▲ 0.5	▲ 0.00	94.7	х	Х	х	Х
業務用機械	74.9	Х	Х	Х	Х	32.7	х	Х	Х	Х

図13 汎用·生産用·業務用機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

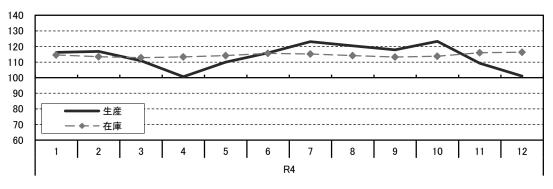
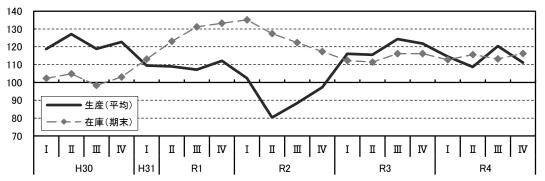
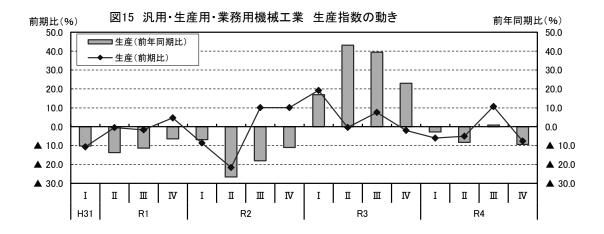


図14 汎用・生産用・業務用機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



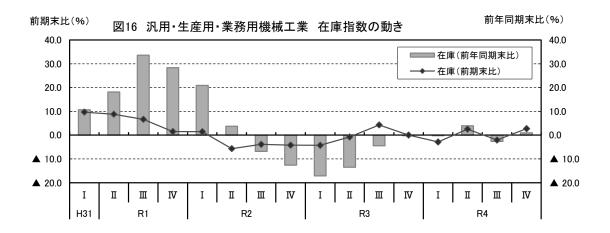
② 生 産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期▲6.0%、II期▲5.1%と令和3年IV期以降3期連続で低下し、III期 10.7%と上昇したが、IV期▲7.6%と再び低下した。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比 (季節調整済指数) は、I 期▲2.9%と低下し、II 期 2.5%と上昇し、III 期▲2.1%と低下したが、IV 期 2.7%と再び上昇した。



(5) 電気機械工業

① 概 況

生産指数は前年比▲10.9%(寄与度▲1.37)で89.1となり、2年連続で低下した。こ れは5品目中、1品目が増加したものの、4品目(その他電気機械、電子部品など)が減少し たことによる(表5、統計表第7表)。

在庫指数は3年連続で上昇した。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェ <i>仆</i> (万分比)	生産指数 令和3年	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比(%)	寄与度 (%ポイント)
電気機械工業	1254.0	100.0	89.1	▲ 10.9	▲ 1.37	578.6	Х	Х	Х	Х
静止電気機械器具	89.7	Х	Х	Х	Х	75.8	Х	Х	Х	Х
その他電気機械	49.3	78.8	70.7	▲ 10.3	▲ 0.04	-	-	-	-	-
半導体	91.3	Х	Х	Х	Х	-	-	-	-	-
集積回路	610.0	Х	Х	Х	Х	-	-	-	-	-
電子部品	413.7	139.3	131.5	▲ 5.6	▲ 0.32	502.8	х	Х	Х	Х

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

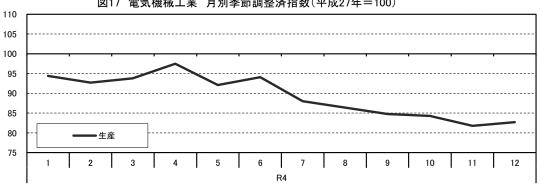
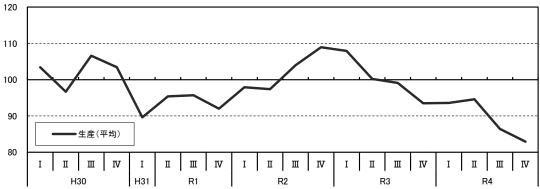
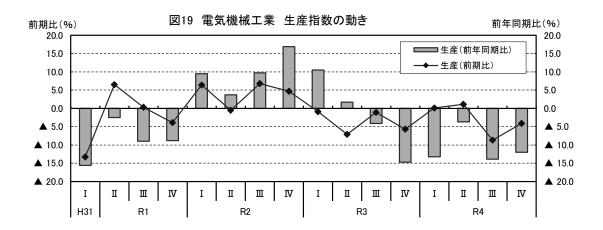


図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



四半期別生産指数の前期比 (季節調整済指数) は、I 期 0.1%、II 期 1.1%と 2 期連続で上昇したが、III 期 ▲ 8.7%、IV 期 ▲ 4.1%と 2 期連続で低下した。

また、前年同期比 (原指数) は、I 期▲13.2%、II 期▲3.7%、III 期▲13.9%、IV 期▲12.0% と令和3年III 期以降6 期連続で前年を下回った (図19、統計表第3表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期は低下したが、II期、III期、IV期は3期連続で上昇した。

また、前年同期末比 (原指数) は、I 期、II 期、III 期、IV期と令和 3 年IV 期以降 5 期連続で前年を上回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

(6)輸送機械工業

① 概 況

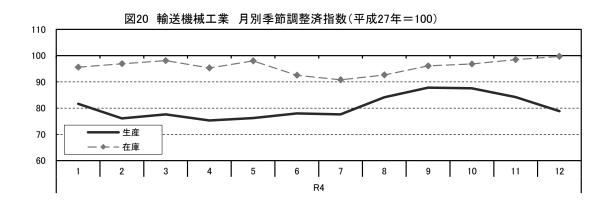
生産指数は前年比 $\triangle 10.5\%$ (寄与度 $\triangle 0.39$) で 80.3 となり、2年ぶりに低下した。これは1品目が減少したことによる (表 6、統計表第7表)。

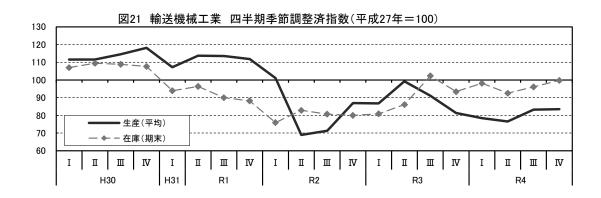
在庫指数は前年末比 6.9% (寄与度 0.14) の上昇で 99.8 となり、2年連続で上昇した。 これは1品目 (自動車部品) が増加したことによる (表 6、統計表第 9 表)。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

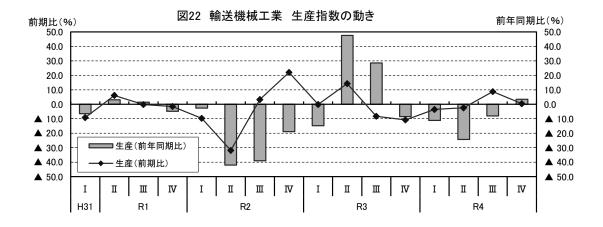
	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比(%)	寄与度 (%ポイント)
輸送機械工業	410.9	89.7	80.3	▲ 10.5	▲ 0.39	225.6	93.4	99.8	6.9	0.14
自動車ボデー	99.4	х	Х	Х	х	-	-	-	-	-
自動車部品	311.5	Х	Х	Х	Х	225.6	93.4	99.8	6.9	0.14





四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期▲3.6%、II期▲2.4%と令和3年 III期以降4期連続で低下したが、III期8.8%、IV期0.4%と2期連続で上昇した。

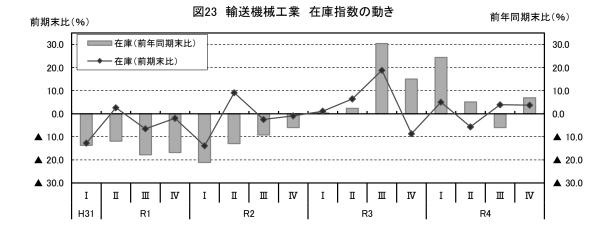
また、前年同期比(原指数)は、I 期 all 11.1%、II 期 all 24.3%、III 期 all 8.0%と令和3年 IV 期以降4 期連続で前年を下回ったが、<math>IV 期 3.5%と前年を上回った(図22、統計表第3表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期 5.0%と上昇し、II 期 ▲5.7%と 低下したが、III 期 3.9%、IV 期 3.7%と 2 期連続で上昇した。

また、前年同期末比 (原指数) は、I 期 24.4%、II 期 5.1%と令和 3 年 I 期以降 6 期連続で前年を上回り、III 期▲6.0%と前年を下回ったが、IV 期 6.9%と再び前年を上回った (図 23、統計表第 4 表)。



(7) 窯業・土石製品工業

① 概 況

生産指数は前年比 12.2% (寄与度 0.22) の上昇で 81.0 となり、 2 年連続で上昇した。これは 6 品目中、 1 品目 (生コンクリート) が減少したものの、 5 品目 (ガラス製品、セメント製品、その他窯業・土石製品など) が増加したことによる (表 7、統計表第 7 表)。

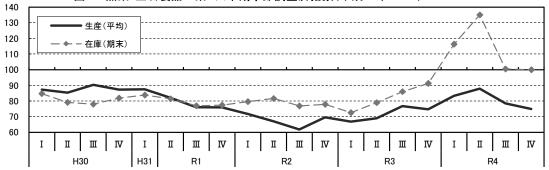
在庫指数は前年末比 2.8% (寄与度 0.09) の上昇で 87.6 となり、2年連続で上昇した。これは5品目中、2品目 (ガラス製品、その他窯業・土石製品) が減少したものの、3品目 (セメント製品など) が増加したことによる (表 7、統計表第9表)。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

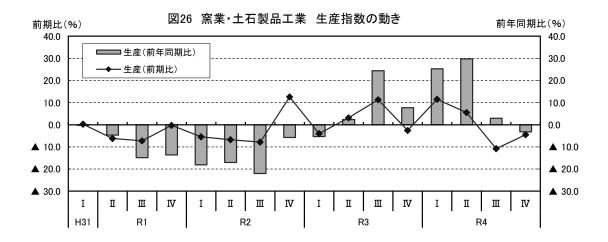
	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
窯業・土石製品工業	252.9	72.2	81.0	12.2	0.22	379.7	85.2	87.6	2.8	0.09
ガラス製品	61.7	74.5	75.0	0.7	0.00	27.3	58.0	43.0	▲ 25.9	▲ 0.04
生コンクリート	79.4	78.6	74.5	▲ 5.2	▲ 0.03	-	-	-	-	-
セメント製品	23.7	92.3	190.3	106.2	0.23	156.3	102.3	109.2	6.7	0.10
炭素製品	52.7	Х	Х	Х	Х	113.8	х	Х	Х	Х
ファインセラミックス	2.2	Х	Х	Х	Х	9.2	х	Х	Х	Х
その他窯業・土石製品	33.2	81.5	82.2	0.9	0.00	73.1	112.8	89.3	▲ 20.8	▲ 0.16

図25 窯業·土石製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期 11.5%、II期 5.5%と2期連続で上昇したが、III期▲10.8%、IV期▲4.5%と2期連続で低下した。

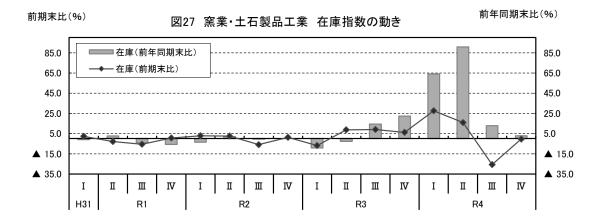
また、前年同期比 (原指数) は、 I 期 25.3%、 II 期 29.7%、 III 期 2.9%と令和 3 年 II 期 以降 6 期連続で前年を上回ったが、 IV 期 ▲ 3.2%と前年を下回った (図 26、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比 (季節調整済指数) は、I 期 27.5%、II 期 16.0%と令和 3 年 II 期以降 5 期連続で上昇したが、III 期 ▲25.6%、IV 期 ▲0.4%と 2 期連続で低下した。

また、前年同期末比 (原指数) は、 I 期 64.0%、 II 期 90.7%、 III 期 12.9%、 IV 期 2.8% と令和 3 年 III 期以降 6 期連続で前年を上回った (図 27、統計表第 4 表)。



(8) 化学工業

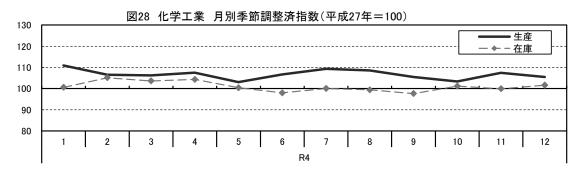
① 概 況

生産指数は前年比▲0.6%(寄与度▲0.16)で 106.7 となり、2年連続で低下した。これは8品目中、1品目(医薬品)が増加したものの、7品目(化学肥料、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品原末・原液など)が減少したことによる(表 8、統計表第7表)。 在庫指数は前年末比 3.1% (寄与度 0.86)の上昇で 94.1 となり、2年連続で上昇した。これは8品目中、4品目(無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品など)が減少したものの、4品目(化学肥料、医薬品原末・原液、医薬品など)が増加したことによる(表 8、統計表第9表)。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

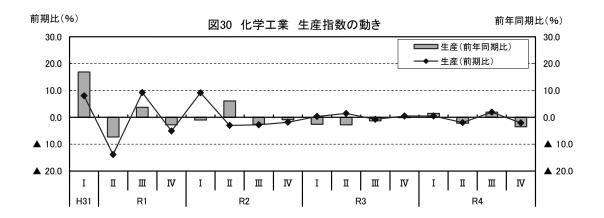
平成27年=100

	ウェイト	生産指数	(原指数)	前年比(%)	寄与度	ウェイト	在庫指数	(原指数)	前年末比	寄与度
	(万分比)	令和3年	令和4年	1111年111(70)	(%ポイント)	(万分比)	令和3年	令和4年	(%)	(%ポイント)
化学工業	2734.0	107.3	106.7	▲ 0.6	▲ 0.16	3225.2	91.3	94.1	3.1	0.86
化学肥料	179.3	94.6	76.7	▲ 18.9	▲ 0.32	349.7	85.8	122.9	43.2	1.24
ソーダ工業品	4.3	х	Х	х	Х	2.6	Х	Х	Х	Х
無機化学製品	31.0	134.1	114.0	▲ 15.0	▲ 0.06	84.6	119.8	105.7	▲ 11.8	▲ 0.11
プラスチック樹脂	33.4	96.4	84.6	▲ 12.2	▲ 0.04	127.1	116.4	104.0	▲ 10.7	▲ 0.15
その他化学製品	125.9	99.6	97.5	▲ 2.1	▲ 0.03	752.5	96.2	81.3	▲ 15.5	▲ 1.07
接着剤	16.4	х	Х	х	Х	107.5	Х	Х	Х	>
医薬品原末•原液	232.8	128.8	121.8	▲ 5.4	▲ 0.16	483.2	86.7	87.5	0.9	0.04
医薬品	2110.9	106.4	108.5	2.0	0.45	1318.0	88.0	95.3	8.3	0.92



四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I 期 0.5% と令和 3 年IV期につづき上昇し、II 期 $\triangle 2.0\%$ と低下し、III 期 1.9% と上昇したが、IV 期 $\triangle 2.1\%$ と再び低下した。

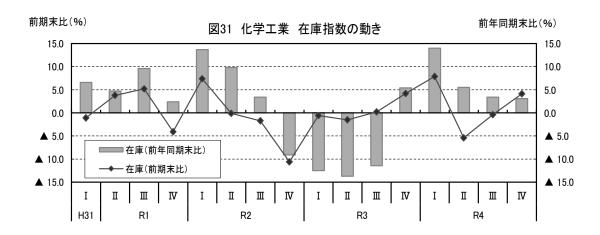
また、前年同期比 (原指数) は、 I 期 1.4% と前年を上回り、 II 期 $\Delta 2.2\%$ と前年を下回り、 III 期 1.9% と前年を上回ったが、 IV 期 $\Delta 3.5\%$ と再び前年を下回った(図 30、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期 7.9%と令和3年Ⅲ期以降3期連続で上昇し、Ⅱ期▲5.4%、Ⅲ期▲0.4%と2期連続で低下したが、Ⅳ期 4.1%と再び上昇した。

また、前年同期末比 (原指数) は、 I 期 14.0%、 II 期 5.5%、 III 期 3.4%、 IV 期 3.1% と 令和 3年IV 期以降 5 期連続で前年を上回った (図 31、統計表第 4 表)。



(9) プラスチック製品工業

① 概 況

生産指数は前年比▲10.9% (寄与度▲0.52) で 86.0 となり、2年ぶりに低下した。こ れは6品目中、3品目(機械器具部品、日用品雑貨、その他プラスチック製品)が増加したもの の、3品目(フィルム・シート、容器、建材・強化製品)が減少したことによる(表9、統計表第 7表)。

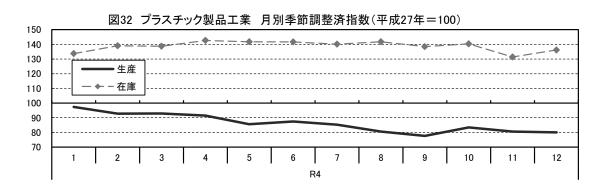
在庫指数は前年末比 4.0% (寄与度 0.30) の上昇で 134.2 となり、2年連続で上昇した。 これは6品目中、2品目(その他プラスチック製品など)が減少し1品目(容器)が横ばいと なったものの、3品目(フィルム・シート、日用品雑貨など)が増加したことによる(表9、統 計表第9表)。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比(%)	寄与度 (%ポイント)
 497.4	96.5	86.0	▲ 10.9	▲ 0.52	621.8	129.1	134.2	4.0	0.30
 211.6	82.2	52.7	▲ 35.9	▲ 0.63	130.4	115.7	122.1	5.5	0.08
 83.8	103.0	108.4	5.2	0.05	5.1	х	Х	Х	Х
12.1	107.8	1035	A 40	▲ 0.02	37.8	100.2	100.2	0.0	0.00

平成27年=100

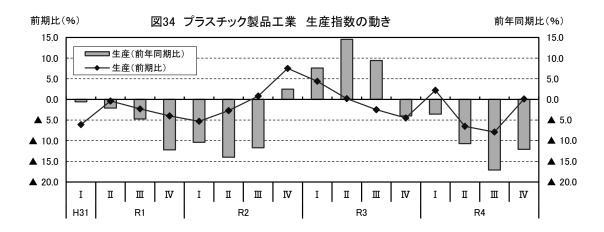
(万分比)	令和3年	令和4年	削年比(%)	(%ポイント)	(万分比)	令和3年	令和4年	(%)	(%ポイント)
497.4	96.5	86.0	▲ 10.9	▲ 0.52	621.8	129.1	134.2	4.0	0.30
211.6	82.2	52.7	▲ 35.9	▲ 0.63	130.4	115.7	122.1	5.5	0.08
83.8	103.0	108.4	5.2	0.05	5.1	Х	Х	Х	Х
43.4	107.8	103.5	▲ 4.0	▲ 0.02	37.8	100.2	100.2	0.0	0.00
59.2	103.2	107.2	3.9	0.02	174.2	101.1	118.5	17.2	0.29
29.1	102.9	101.7	▲ 1.2	▲ 0.00	4.6	х	Х	Х	Х
70.3	116.5	124.1	6.5	0.05	269.7	157.1	154.4	▲ 1.7	▲ 0.07
	497.4 211.6 83.8 43.4 59.2 29.1	(万分比) 令和3年 497.4 96.5 211.6 82.2 83.8 103.0 43.4 107.8 59.2 103.2 29.1 102.9	特別 特別 特別 特別 特別 特別 特別 特別	(カガ比) 令和3年 令和4年 497.4 96.5 86.0 ▲ 10.9 211.6 82.2 52.7 ▲ 35.9 83.8 103.0 108.4 5.2 43.4 107.8 103.5 ▲ 4.0 59.2 103.2 107.2 3.9 29.1 102.9 101.7 ▲ 1.2	497.4 96.5 86.0 ▲ 10.9 ▲ 0.52 211.6 82.2 52.7 ▲ 35.9 ▲ 0.63 83.8 103.0 108.4 5.2 0.05 43.4 107.8 103.5 ▲ 4.0 ▲ 0.02 59.2 103.2 107.2 3.9 0.02 29.1 102.9 101.7 ▲ 1.2 ▲ 0.00	(カ方比) 令和3年 令和4年 (96×17) (フ方比) 497.4 96.5 86.0 ▲ 10.9 ▲ 0.52 621.8 211.6 82.2 52.7 ▲ 35.9 ▲ 0.63 130.4 83.8 103.0 108.4 5.2 0.05 5.1 43.4 107.8 103.5 ▲ 4.0 ▲ 0.02 37.8 59.2 103.2 107.2 3.9 0.02 174.2 29.1 102.9 101.7 ▲ 1.2 ▲ 0.00 4.6	(96年) 令和3年 令和4年 (96年) (96年	(95万比) 令和3年 令和4年 (96×17F) (9万比) 令和3年 令和4年 497.4 96.5 86.0 ▲ 10.9 ▲ 0.52 621.8 129.1 134.2 211.6 82.2 52.7 ▲ 35.9 ▲ 0.63 130.4 115.7 122.1 83.8 103.0 108.4 5.2 0.05 5.1 X X X 43.4 107.8 103.5 ▲ 4.0 ▲ 0.02 37.8 100.2 100.2 59.2 103.2 107.2 3.9 0.02 174.2 101.1 118.5 29.1 102.9 101.7 ▲ 1.2 ▲ 0.00 4.6 X X	(96年) 今和3年 令和4年 (96年) (96年



プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100) 150 140 130 120 110 100 90 生産(平均) 80 70 I II IV I I I I I I I I I I I Ш H30 R2 R3 R4 R1

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期 2.2%と上昇し、II 期▲6.5%、III 期▲7.9%と2期連続で低下したが、IV期 0.1%と再び上昇した。

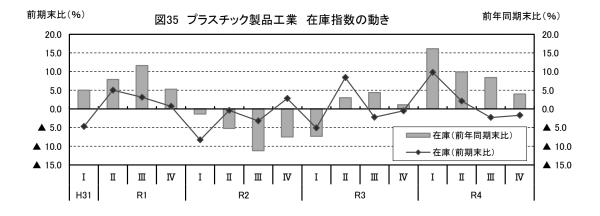
また、前年同期比 (原指数) は、I 期▲3.6%、II 期▲10.7%、III 期▲17.1%、IV 期▲12.1% と令和3年IV 期以降5 期連続で前年を下回った (図34、統計表第3表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比 (季節調整済指数) は、I 期 9.8%、II 期 2.1%と 2 期連続で 上昇したが、III 期 ▲ 2.3%、IV 期 ▲ 1.7% と 2 期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、 I 期 16.1%、 I 期 9.9%、 II 期 8.4%、 IV 期 4.0% と 令和 3 年 II 期以降 7 期連続で前年を上回った。(図 35、統計表第 4 表)。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概 況

生産指数は前年比 $\triangle 5.0\%$ (寄与度 $\triangle 0.19$)で 86.7 となり、2 年ぶりに低下した。これは 6 品目中、2 品目(段ボール・箱・袋など)が増加したものの、4 品目(板紙など)が減少したことによる(表 10、統計表第 7 表)。

在庫指数は前年末比 $\triangle 23.7\%$ (寄与度 $\triangle 1.08$)で 60.9 となり、 2 年ぶりに低下した。これは 5 品目中、 1 品目(板紙)が増加したものの、 4 品目(段ボール・箱・袋など)が減少したことによる(表 10、統計表第 9 表)。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	91.3	86.7	▲ 5.0	▲ 0.19	597.5	79.8	60.9	▲ 23.7	▲ 1.08
パルプ	88.7	Х	Х	х	Х	-	-	-	-	-
紙	131.7	Х	Х	х	Х	221.3	Х	Х	Х	Х
紙器	6.8	Х	Х	Х	Х	45.0	Х	Х	Х	Х
板紙	53.3	70.3	69.1	▲ 1.7	▲ 0.01	114.0	67.1	68.1	1.5	0.01
段ボール・箱・袋	77.4	99.4	101.4	2.0	0.02	15.5	96.8	95.0	▲ 1.9	▲ 0.00
その他紙製品	44.0	Х	Х	Х	Х	201.7	Х	Х	Х	Х

図36 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

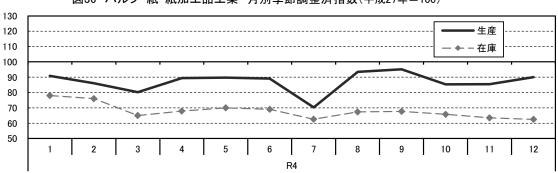
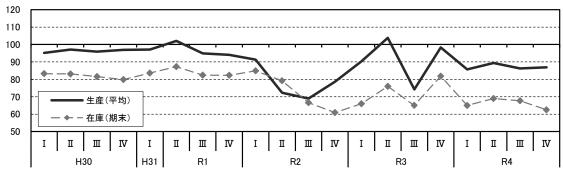
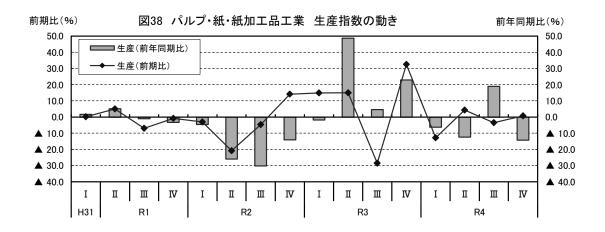


図37 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期▲12.8%と低下し、II期 4.3%と上昇し、III期▲3.5%と低下したが、IV期 0.7%と再び上昇した。

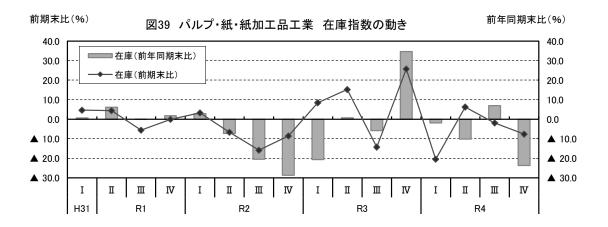
また、前年同期比 (原指数) は、I 期▲6.3%、II 期▲12.4%と 2 期連続で前年を下回り、 III 期 19.0%と前年を上回ったが、IV期▲14.3%と再び前年を下回った (図 38、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期▲20.5%と低下し、II期 6.2%と上昇したが、III期▲1.9%、IV期▲7.7%と2期連続で低下した。

また、前年同期末比 (原指数) は、 I 期▲1.9%、 II 期▲10.2% と 2 期連続で前年を下回 り、III 期 6.9% と前年を上回ったが、IV 期▲23.7% と再び前年を下回った (図 39、統計表第 4 表)。



(11) 繊維工業

① 概 況

生産指数は前年比 18.8%(寄与度 0.28)の上昇で 91.7 となり、5年ぶりに上昇した。これは5品目中、3品目(化繊・紡績、織物、染色整理)が減少したものの、2品目(衣類、その他繊維製品)が増加したことによる(表 11、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比 $\triangle 18.0\%$ (寄与度 $\triangle 0.45$)で 82.6 となり、 2 年ぶりに低下した。これは 5 品目中、 3 品目(織物、染色整理、衣類)が減少したものの、 2 品目(化繊・紡績、その他繊維製品)が増加したことによる(表 11、統計表第 9 表)。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

		1 ////								7次27年-100
	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
繊維工業	193.5	77.2	91.7	18.8	0.28	258.1	100.7	82.6	▲ 18.0	▲ 0.45
化繊・紡績	41.1	65.5	64.7	▲ 1.2	▲ 0.00	38.0	73.9	94.5	27.9	0.07
織物	31.5	71.3	57.4	▲ 19.5	▲ 0.04	76.6	72.7	60.8	▲ 16.4	▲ 0.09
染色整理	27.8	108.7	98.2	▲ 9.7	▲ 0.03	38.5	151.4	92.5	▲ 38.9	▲ 0.22
衣類	72.2	70.1	118.5	69.0	0.35	87.2	109.7	76.0	▲ 30.7	▲ 0.28
その他繊維製品	20.9	91.7	95.5	4.1	0.01	17.8	124.7	161.1	29.2	0.06

図40 繊維工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

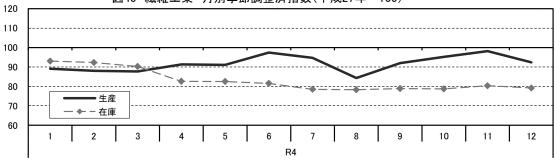
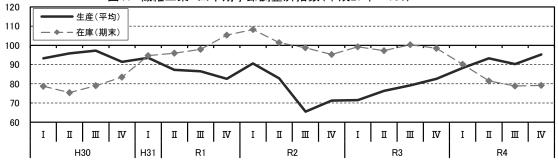
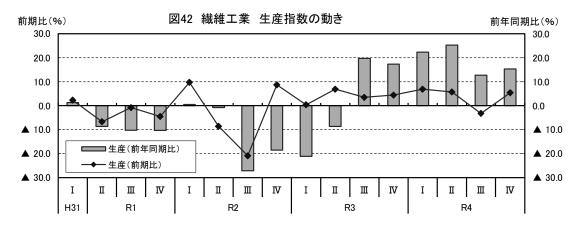


図41 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



四半期別生産指数の前期比 (季節調整済指数) は、I 期 6.9%、II 期 5.7%と令和 2 年IV 期 以降 7 期連続で上昇し、III 期 ▲3.2%と低下したが、IV 期 5.4%と再び上昇した。

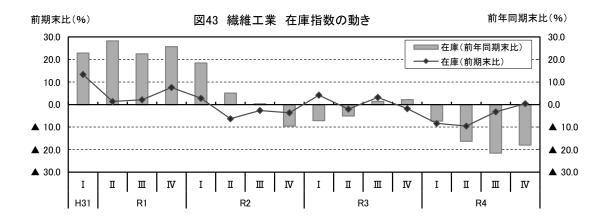
また、前年同期比 (原指数) は、 I 期 22.3%、 II 期 25.3%、 III 期 12.7%、 IV 期 15.3% と 令和 3 年 III 期以降 6 期連続で前年を上回った (図 42、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期▲8.4%、II期▲9.6%、III期 ▲3.2%と令和3年IV期以降4期連続で低下したが、IV期0.4%と上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、 I 期▲7.4%、 II 期▲16.3%、 III 期▲21.6%、 IV 期 ▲18.0% と 4 期連続で前年を下回った。(図 43、統計表第 4 表)。



(12) 食料品工業

① 概 況

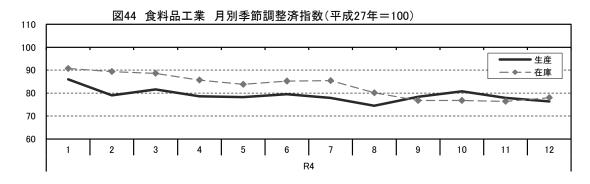
生産指数は前年比 $\triangle 0.5\%$ (寄与度 $\triangle 0.02$)で 78.7 となり、2 年ぶりに低下した。これは 7 品目中、2 品目(飲料など)が増加したものの、5 品目(畜産食料品、調味料、その他の食料品など)が減少したことによる(表 12、統計表第 7 表)。

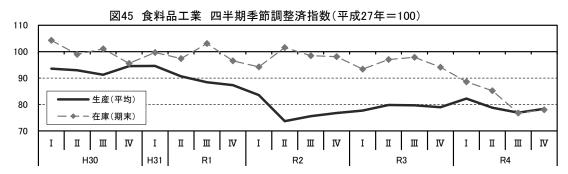
在庫指数は前年末比 $\triangle 15.5\%$ (寄与度 $\triangle 0.71$) で 66.3 となり、5年連続で低下した。これは7品目すべてが減少したことによる (表 12、統計表第9 表)。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

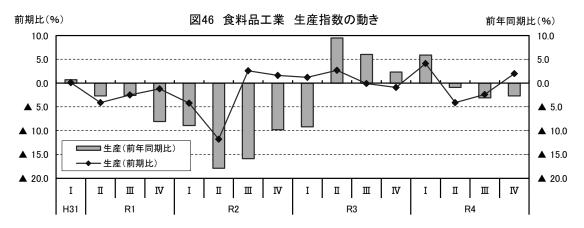
	ウェイト	生産指数	(原指数)	前年比(%)	寄与度	ウェイト	在庫指数	(原指数)	前年末比	寄与度
	(万分比)	令和3年	令和4年	削牛瓜(%)	(%ポイント)	(万分比)	令和3年	令和4年	(%)	(%ポイント)
食料品工業	531.7	79.1	78.7	▲ 0.5	▲ 0.02	603.8	78.5	66.3	▲ 15.5	▲ 0.71
畜産食料品	120.0	77.3	72.7	▲ 6.0	▲ 0.06	86.5	Х	Х	Х	Х
水産食料品	23.5	Х	Х	Х	х	30.4	Х	Х	Х	Х
調味料	23.0	86.7	81.1	▲ 6.5	▲ 0.01	84.4	68.0	63.9	▲ 6.0	▲ 0.03
精穀・製粉	1.3	Х	Х	Х	Х	2.9	98.3	83.8	▲ 14.8	▲ 0.00
パン・菓子	42.9	Х	Х	Х	x	9.1	Х	Х	Х	Х
その他の食料品	215.9	85.1	84.5	▲ 0.7	▲ 0.01	94.3	92.1	78.5	▲ 14.8	▲ 0.12
飲料	105.1	75.5	79.9	5.8	0.05	296.2	82.1	68.9	▲ 16.1	▲ 0.37





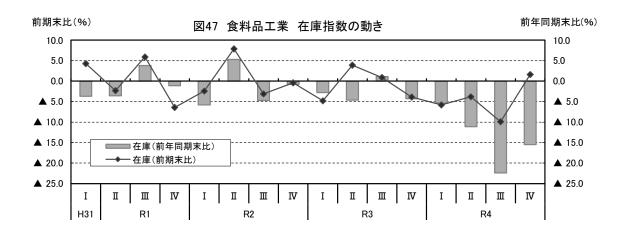
四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期 4.1%と上昇し、II 期 ▲4.1%、III 期 ▲2.4%と2 期連続で低下したが、IV期 2.0%と再び上昇した。

また、前年同期比 (原指数) は、I 期 5.9% と令和 3 年 II 期以降 4 期連続で前年を上回ったが、II 期 ▲0.9%、III 期 ▲3.1%、IV 期 ▲2.7% と 3 期連続で前年を下回った(図 46、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期▲5.8%、II期▲3.8%、III期 ▲9.9%と令和3年IV期以降4期連続で低下したが、IV期1.6%と上昇した。また、前年同期末比(原指数)は、I期▲5.4%、II期▲11.1%、III期▲22.4%、IV期 ▲15.5%と令和3年IV期以降5期連続で前年を下回った(図47、統計表第4表)。



(13) その他工業

① 概 況

生産指数は前年比▲0.8% (寄与度▲0.04) で 85.1 となり、2年ぶりに低下した。これ は4品目中、1品目が増加したものの、3品目(印刷業、木材・木製品工業など)が減少した ことによる (表13、統計表第7表)。

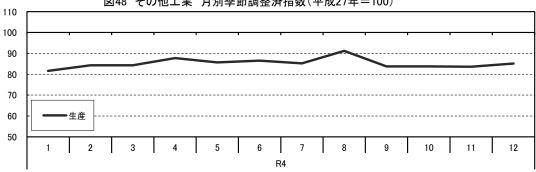
在庫指数は2年ぶりに低下した。

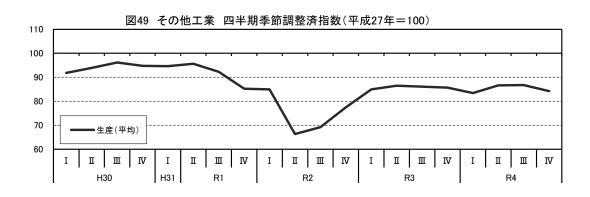
表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

777	-1: 0:	7年=1	001

	ウェイト (万分比)	生産指数 令和3年		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数 令和3年	(原指数) 令和4年	前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
その他工業	544.0	85.8	85.1	▲ 0.8	▲ 0.04	271.6	Х	Х	Х	х
ゴム製品工業	44.7	х	Х	Х	Х	27.5	х	Х	Х	х
印刷業	104.4	80.2	75.0	▲ 6.5	▲ 0.05	28.8	х	Х	Х	х
木材・木製品工業	107.2	105.2	93.5	▲ 11.1	▲ 0.13	-	-	-	-	-
その他製品工業	287.7	Х	Х	Х	Х	215.3	Х	Х	Х	Х

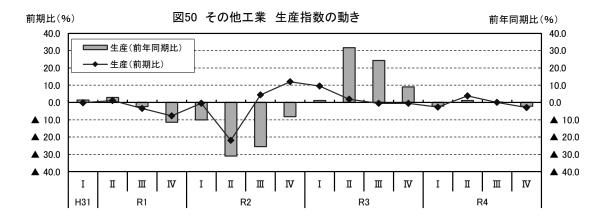
図48 その他工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)





四半期別生産指数の前期比 (季節調整済指数) は、I 期▲2.7%と令和3年Ⅲ期以降3期連続で低下し、Ⅱ期3.8%、Ⅲ期0.1%と2期連続で上昇したが、Ⅳ期▲2.9%と再び低下した。

また、前年同期比 (原指数) は、 $I 期 \triangle 2.1\%$ と前年を下回り、II 期 1.1%、III 期 0.2%と 2 期連続で前年を上回ったが、 $IV 期 \triangle 2.2\%$ と再び前年を下回った (図 50、統計表第 3 表)。



③ 在 庫

四半期別在庫指数の前期末比 (季節調整済指数) は、I 期、II 期と 2 期連続で上昇したが、 III 期、IV 期と 2 期連続で低下した。

また、前年同期末比 (原指数) は、Ⅰ期、Ⅱ期と令和3年Ⅱ期以降5期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期、Ⅳ期は2期連続で前年を下回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

3 財用途別動向

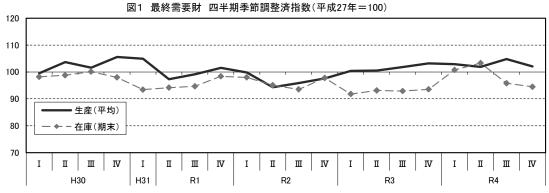
注:財用涂別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15~16「業種別・ 財別品目一覧」を参照。

(1) 最終需要財

生産は前年比 (原指数) 1.2%の上昇で 102.9 となり、在庫は前年末比 (原指数) ▲1.7% で 91.5 となった (統計表第11表・第13表)。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、Ⅰ期▲0.3%、Ⅱ期▲1.0% と2期連続で低下し、Ⅲ期 2.8%と上昇したが、 \mathbb{I} V期 \triangleq 2.6%と再び低下した。

在庫指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、I期7.7%、Ⅱ期2.5%と令和3年 Ⅳ期以降3期連続で上昇したが、Ⅲ期▲7.3%、Ⅳ期▲1.4%と2期連続で低下した(図 1、統計表第2表·第5表·第6表)。



① 投資財

投資財全体では、生産が前年比(原指数)▲1.1%で105.3となり、在庫が前年末比(原指 数) ▲3.3%で 116.9 となった。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、Ⅰ期▲1.2%、Ⅱ期▲3.4% と令和3年IV期以降3期連続で低下し、Ⅲ期6.2%と上昇したが、IV期▲4.7%と再び低 下した。

在庫指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、Ⅰ期20.5%、Ⅱ期7.4%と令和3 年Ⅱ期以降5期連続で上昇したが、Ⅲ期▲18.5%、Ⅳ期▲2.2%と2期連続で低下した (図2、統計表第2表·第5表·第6表)。

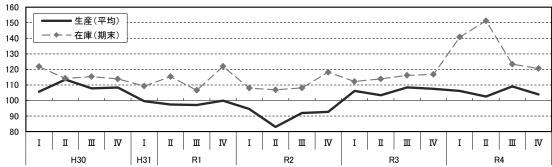


図2 投資財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

投資財のうち**資本財**は、生産が前年比(原指数) $\triangle 4.1\%$ で 117.8 となり、在庫が前年末比(原指数) $\triangle 1.2\%$ で 102.5 となった。

在庫指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、 I 期 9.0%、 II 期 0.6% ≥ 2 期連続で上昇し、III 期 ▲8.2% と低下したが、IV 期 2.7% と再び上昇した(図 3 、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

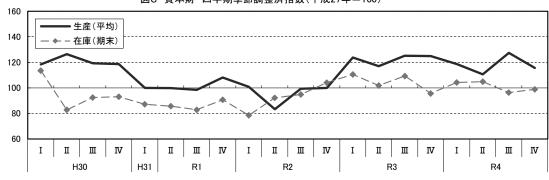


図3 資本財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

また、**建設財**は、生産が前年比(原指数)3.0%の上昇で 91.9 となり、在庫が前年末比 (原指数) $\triangle 3.9\%$ で 121.5 となった。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、I期 3.8%、II期 0.6%と 2期連続で上昇し、III期▲5.1%と低下したが、IV期 4.3%と再び上昇した。

在庫指数 (季節調整済指数) を四半期別にみると、 I 期 24.7%、 II 期 5.4%と令和 3 年 II 期以降 5 期連続で上昇したが、 III 期 ▲18.1%、 IV 期 ▲2.1%と 2 期連続で低下した (図 4、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

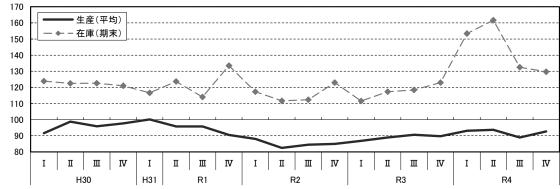


図4 建設財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

② 消費財

消費財全体では、生産が前年比 (原指数) 2.8%の上昇で 101.4 となり、在庫が前年末 比 (原指数) ▲0.9%で 83.7 となった。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、I 期 1.0% と令和 3 年I 別 につづき上昇し、I 期は横ばいとなり、II 期 1.4% と再び上昇したが、I I 期 Δ 0.8% と低下した。

在庫指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、I 期 2.4%、II 期 0.7% と令和 3 年 IV 期以降 3 期連続で上昇したが、III 期 $\Delta 2.5\%$ 、IV 期 $\Delta 0.6\%$ と 2 期連続で低下した(図 5、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

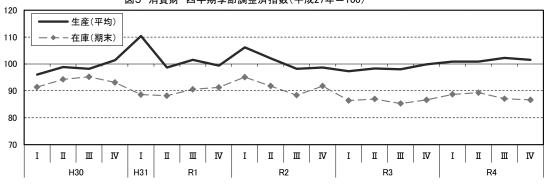


図5 消費財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比(原指数) ▲7.4%で90.3となり、在庫が前年末比(原指数)7.2%の上昇で117.9となった。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、 I 期▲2.5%、 II 期 ▲2.6%、 III 期▲1.6%、 IV 期▲3.0%と令和3年III 期以降6期連続で低下した。 在庫指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、 I 期 0.8%と令和3年III 期以降

3 期連続で上昇し、Ⅱ期▲1.2%と低下したが、Ⅲ期 2.9%、Ⅳ期 4.4%と 2 期連続で上昇した(図6、統計表第 2 表·第 5 表·第 6 表)。

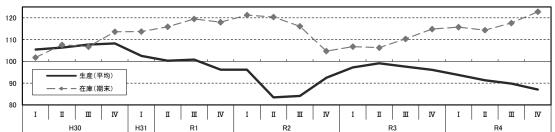


図6 生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

① 鉱工業用生産財

生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比 (原指数) ▲7.2%で 90.9 となり、在庫が前年末比 (原指数) 6.0%の上昇で 118.0 となった。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、Ⅰ期▲2.4%、Ⅱ期▲2.3%、Ⅲ期▲1.4%、Ⅳ期▲2.9%と令和3年Ⅲ期以降6期連続で低下した。

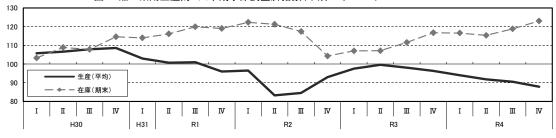


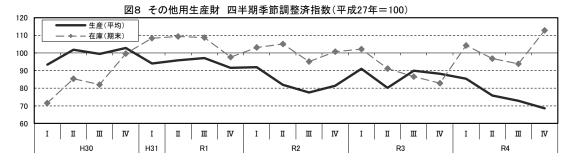
図7 鉱工業用生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比(原指数) ▲13.6%で 75.4 となり、在庫が前年末比(原指数) 35.8%の上昇で 116.1 となった。

また、生産指数(季節調整済指数)を四半期別にみると、I 期▲3.2%、II 期▲11.2%、III 期▲4.0%、IV 期▲5.8%と令和3年IV 期以降5期連続で低下した。

在庫指数 (季節調整済指数) を四半期別にみると、I 期 25.8% と上昇し、II 期 $\blacktriangle 7.1\%$ 、III 期 $\blacktriangle 3.1\%$ と 2 期連続で低下したが、IV 期 20.3% と再び上昇した(図 8、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。



MEMO